校長室だより No.8

たたら製鉄実習を通して

「学級づくりの学期」と位置づけた今学期。毎日の授業・学級活動はもちろんのこと、たくさんある行事、地域に学ぶ「千種学講座」などを通して、みんなでよりレベルの高い学級へと成長していってくれるよう願っています。

１０月は、１日に「中高合同体育祭」を、１４日には「たたら製鉄実習」を、２６日には「道徳科授業研究会」をそれぞれ実施し、それぞれの学級を基盤にして、準備（練習）・本番ともに、互いに声を掛け合いながら、一生懸命に取り組む姿が見られました。現在は、今月７日（土）に開催される園小中高ふれあい文化祭・中学校文化祭にむけて、これまた「学級を基盤」にして、ほどよい緊張感の中で「ええ顔」で練習に励んでいます。

「たたら製鉄実習」は、No.４にも掲載しましたが、当時の千種町教育委員会や保存会の皆様のご指導により、平成９年度に「天児屋たたら公園（たたらの里学習館)」において始まりました。今年で３０回目を迎えました。生徒たちは、夏休みを利用して砂鉄採集・鉄穴（かんな）流しを行い、製鉄炉を組み、先月１４日にたたら製鉄実習本番を迎えました。1000℃にせまる炉に、砂鉄と木炭を交互に入れ、今年は５時間ほどかけて約９ｋｇの鋼（けら）を取り出すことができました。千種の山の土から採集できる砂鉄は良質の「真砂砂鉄」で、たたら製鉄に最も適しており、その良質の砂鉄から生み出された「千草鉄」は高い品質を誇り、かつての刀匠たちに珍重されたそうです。炭は岩手県をはじめ東北地方から購入していた時期もあったようですが、近年では、地元鷹巣地区で焼かれた炭を使用しています。まさに、生粋の千種産（千草鉄）です。今年度も、保存会や地域の支援者のみなさんのご指導を仰ぎながら、鉄と自然と人間が作り出した、千種の魅力を再発見する貴重な経験となりました。ご指導、ご協力いただいた皆様方に、心から感謝申し上げます。

この取組は、８年生が主体となって実施していますが、砂鉄採集は全校生が手伝っています。また、数年前から鉄穴流しや炭切り、たたら公園案内などを、前年度の経験（学び）を生かして９年生が８年生に伝授するスタイルをとっています。このように、本校の生徒たちは３年間ずっと何らかの形でたたら製鉄学習に関わりながら、ふるさとへの誇りを胸に巣立っていきます。

２学期は、生徒たちの頑張りを保護者や地域の皆様に披露させていただける行事がたくさんあります。１１月以降も「ふれあい文化祭」「オープンスクール」「しめ縄づくり」「園小中高合同マラソン大会」･･･と盛りだくさんです。これらの行事・地域の方々との交流を通して、生徒たちが「自律・尊重・挑戦」を刻み込んでくれるよう願っています。そして、自己有用感や達成感をしっかりと身につけて欲しいと思います。

令和８年１１月２日

千種学園
宍粟市立千種中学校長　上山 昌秀